

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700115		
法人名	社会福祉法人 水澄み会		
事業所名	グループホームゆうな あざみや		
所在地	島根県浜田市三隅町河内465番地3		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江上市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様お一人お一人の気持ちに沿って日常生活に満足感が得られるように支援している。行事食を提供し季節の節目を大事にして頂いている。また誕生日食も提供し、利用者様の誕生日をお祝いしている。
日々の生活の中で、食前体操、散歩等を行い運動機能を維持できるように支援している。各利用者様、残存能力を活かして頂く様、自身で行える事は行って頂き、不十分な部分を支援するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな地域ではあるが、川が近く過去には大水害を経験しており、平坦な場所のため毎年のように水害の危険地域となっている。そのため地域全体で防災意識が高く、コロナ禍でも充実した訓練が行われている。昨年秋には施設内でコロナ感染者が発生し入院したため、防護服を着てのケアも経験しており、この数年のコロナ対応の大変さが伺えたが、管理者は経験豊富で職員の信頼も篤く、新規採用の職員も含めチームワークの良さで乗り切ったように感じられた。以前から認知症に加え精神疾患のある方の受け入れを行っているため、入居者同士のいざこざ等、対応の難しさも感じられるが、母体となるグループは規模が大きく職員育成も積極的に行われてきているため、職員個々にレベルアップすることで、より充実した認知症ケアがなされるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は覚えているが共有は個々に差がある。	グループ全体の理念がありグループホームの理念に繋がっている。頭文字をとった覚えやすいキャッチフレーズもできている。新人職員のフォローアップや中途採用職員研修でも理念に関する話がある。コロナ禍となりリモートで行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が続いており、地域のイベントや交流などに殆ど参加出来ていない。地域の草刈りや集会所掃除など職員のみ参加の奉仕活動には参加している。	集会所の掃除や草刈りには職員が参加。JA職員による施設回りの草刈りのボランティアも行われている。ゴミ袋を折って届ける方があったり、お宮のしめ縄作りに職員が参加するなどコロナ禍で減ってはいるが、関わりを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が続いており、地域のイベントや交流などに開催や参加出来ていないが、広報(ゆうな便り)や月1回の手紙、運営推進会議の開催や報告書などで情報発信行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、R3/3月、5月、7月では会議開催出来ず報告書等の送付を行う。9月、11月では施設外(玄関前)で会議を行ったが、R4/1月以降はコロナ流行によりまた報告書等の送付となる。	コロナ感染症流行前は密にならない形で開催していたが、文書開催に切り替えている。市の地域福祉課、民生委員、地域支援員に家族代表の参加で開催。入居者の状況、行事、研修などの報告をし意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回運営推進会議の資料を送付し、意見を頂くようにしている。R3/9月と11月では運営推進会議に参加して下さり、意見を交わした。認定調査等でも関わりがあり、協力関係を築けている。	運営推進会議には毎回地域福祉課より参加があり助言を得ている。生活保護担当課とは手紙でやり取りをし、生活状況や家族との関わりなど報告している。水害防災自治課からは消防訓練への誘いを受けるなど行政と良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行わず、外に出たい方には一緒に歩くようにしており、拘束の無いケアを目指している。しかし身体拘束についての理解は個々に差がある。	身体拘束防止委員会を定期に開催したり、母体の法人の研修にも参加している。5月には虐待防止を含めて研修を計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5月にのみ虐待の学習会を開催した。虐待の理解については個々に差がある。利用者様への暴力等は無論ないが、利用者様への言葉遣いが荒い時があり、その時は指摘し注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は支援行っているが、権利擁護に関する制度の学習会は行えておらず、制度の理解は個々に差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に自施設に来所して頂き、契約に関する説明を対面に行い、不安や疑問点にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議関係書類の中にご意見ご要望のコーナーを設け、運営に反映させている。また各利用者様のキーパーソンに月1回手紙を送付する等、情報発信も逐一行っている。	年1回家族会を開催していたがコロナ禍で中止。家族アンケートは続けており、結果を公表し業務改善に繋げている。グループホーム便りに加え、日頃の様子も伝え、不定期だが行事等の写真も送り、意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、GHゆうな会議において反映されている。	職員は毎年理念に沿った個人目標を掲げており、半年後と年度末の2回個人面談の機会を設けている。管理者は、新規職員の採用時に期間を区切って話を聞くなど意見が出やすくなるよう気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から要望があれば、話し合っって要望に出来るだけ答えている。基本月に2日は希望休が取れるようにしている。しかし職員同士の人間関係に難がみられ、職場環境の整備が上手く整っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	この1年で防火管理者研修、認知症介護実践リーダー研修を修了しており、他にも救命処置の講義、チーフリーダー研修、中途入職者研修、管理者研修など法人内外問わず、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広範囲での交流は感染が収束しない現在では困難だが、出来る状況になれば取り組みたい。特に自施設では看護師がおらず、医療面の質にやや難が見られる為、看護師と交流する機会を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞きながら、要望に沿って支援するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見を聞きながら、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意見を聞きながら、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自力で行える事は自力で行えるように支援している。手作業や家事など手伝える事は声掛けにて行って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為面会は出来ないが、手紙による情報発信や電話での会話など本人と家族様が関わりが持てるよう支援している。また有事の際には家族様に連絡、相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為直接の交流は難しい。電話での会話など間接的な交流で支援に努めている。	コロナ感染者が増えており面会は中止しているため、受診の付き添いが家族と関われる限られた機会となっている。図書館で本を借りることや地域の理髪店の方に来てもらうことなどコロナ禍でもできるだけ続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないよう、席替えや共同での体操、手作業等に対応している。しかし、どうしても不仲同士な利用者様もいる為、その方たちの接触自体を避けたり、口論になった時は間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要書類は数年間保管し、家族様や他施設職員(他施設入居の場合)より情報請求や相談等があればそれに答える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人に意向を聞いている。本人が答えられない時はご家族様、介護支援専門員、介護員で話し合い、検討している。	具体的にしたいことを言える方は少なく、今のままがいい、元気で暮らしたいが多く聞かれる。家族からも病気せず元気でいられれば、という意向が多い。手先を動かすことをさせてほしいという意見も多いためプランに繋げるようにしている。	思いの把握に努め、個別援助計画がより充実したものになるよう検討していただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めているが、把握しているかどうかは職員で個々に差がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する力を把握し、残存能力を活かして頂けるよう努めている。また現状に何かしらの変化があった時、それを記録し情報の共有、ケアの見直し等が行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向に沿ったケアプランを作成するようにしているが、コロナ禍やご家族様の事情で直接会っての話し合いが難しく(担当者会議等)、職員本位でのケアプランになりかねない。ケアプラン送付にて確認して頂き、了承は得ている。	本人に家族関係者が集合した形での担当者会議の開催は難しいため、電話等で話を聞いたことをもとに会議を行い、了解を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報共有を行いながら、介護計画、実践見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応し、本人に合った支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度と同じく、今年度もコロナ禍の影響で行えなかったが、地域のイベントや行事に参加するなど、地域に溶け込めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医として内科医2名と精神科医1名がおり、月1回の往診で対応している(別の医療機関受診の方もおられる)。体調不良時などに主治医に相談し、必要時受診している。	入所時に今までのかかりつけ医を継続することも施設の協力医に変更することも可能になっている。定期の往診が可能な協力医に変更する方が殆どで、休日、夜間等にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設では看護師がいない為、利用者様の体調不良時には主治医に相談し、必要時受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の往診時に利用者様の細かな情報交換、相談を行いながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同グループ内に老健、特養等多くのサービスがある為、重度になった場合も受け入れが可能になっている。自施設では看取りは行っていない。要介護度3以上になったら特養の申し込みをするなど、スムーズに移行できるように話している。	同グループ内に県西部を中心に多くのサービス事業所がある。重度化した場合も状態に合わせて老健や特老への移行がスムーズにできてため、グループホームでの看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度に続き、今年度も行えていないが、職員2名が8月に救命処置の講義に参加した。急変時の対応の理解は職員で個々に差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に住民参加型の防災訓練に参加。12月には災害対策の学習会実施。今月(3月)に消防訓練実施予定。避難方法の理解は職員で個々に差がある。毎月備蓄品の確認を行い、期限切れが近くなると買い足し行っている。	過去に大水害を経験したり毎年のように水害の危険地域となるため、今年度も住民参加型の訓練に参加している。グループホーム内でも消火器や通報の訓練を行い、備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊重、プライバシーを確保し、常にその意識を持ち対応しているが、こちらが意図せずに利用者様の誇りやプライバシーを傷つける事もある。	認知症に加え、精神疾患のある方が多く他者との関係性がうまく保てず、声が出たり時には喧嘩になる場合も多くある。どのような場合も目上の人という意識を常に持つように職員間で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけているが、多忙時、拒否、帰宅要求など業務に支障が出そうな時は強引にこちらで決める時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿い、その人らしい生活が出来るよう支援に努めているが、職員側の都合を優先する時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。整容等、必要時は介助行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食事の盛り付け、お茶入れ等出来る事を行って頂いている。行事食や誕生日食(その日誕生日の方の)を提供し、食事が楽しめるよう努めている。	食材の買い物がいい外出の機会にもなっていたが、コロナ禍でできないため、職員が週2回、まとめ買いをしている。量が多く時間を要するためかなりの負担になっているが、みんなで調理に関わることがいい刺激となっているため、3食を施設で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に確認を行っている。水分量足りない方は本人の好む飲み物(紅茶やココア等)やゼリーを提供する。塩分や糖分の制限が必要な方おられるが、自施設だと本格的な事が出来ず、簡単な対応(量減らす等)しか出来ない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けにて行って頂き、介助が必要な方は介助にて行っている。しかし声掛けしても口腔ケアしない方や意思疎通困難で介助自体が出来ない方もおられ、全員は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	大半の方が紙パンツにパットを使用。介助のいない方もある。夜間紙おむつでも日中は紙パンツに変えてトイレで排泄できるようにしたり、個々に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(牛乳、ヨーグルト)提供、食前体操、散歩等を行い、自然排便が行えるよう努めている。また下剤使用している方は、本人の排便状況を把握し、下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本1日に3人入浴で、3日に1回は入浴できるようにしている。時間帯、入浴の順番、介助者等、希望があれば沿うようにしている。	やや大きめの家庭浴槽ではあるが、車いすの方で中に入れない場合は、シャワー浴対応としている。入浴嫌いの方には、理由を考え対応を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたいと訴えたり、傾眠が強いようなら休んで頂くが、長時間ベッドで過ごさないよう、一定時間経てばフロアへ出て頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の持病等調べ、日々の様子を記録し病状に変化があるか確認している。服薬の支援は飲みこぼしが無いよう、各利用者様に合った服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様に合わせたケアプランの通りにそれぞれに合った手作業、家事、気分転換などを行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、家族や地域の方との接触は極力中止している。散歩、ドライブ等の他者との接触がなければ、出来るだけ希望に沿えるよう支援している。	外出行事は中止のため、普段は施設周辺の散歩をしたり、ひとりずつや少人数でドライブに出かけるようにしている。春には車いすの方も車を借りて、花見に行けるよう計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様から何か購入したいと訴えあれば、家族様等に相談し持参して頂くか、家族様等に購入の許可を頂ければ、仮払いで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、その要望に沿えるよう支援しているが、本人からそのような要望はあまりみられず。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激が無いよう配慮している。各季節に合わせて飾り付けやエアコンの調整等を行い、居心地よく過ごせるように工夫している。	生活道路に面しているが交通量は限られ、車の騒音等はなく静か。窓が多くデイルームからは外がよく見え明るい。自然豊かな地域であり、窓からの景色で季節の変化が感じられる。手作業で季節の飾りも作成しており、壁を彩っている。寒い地域でもあり、冬場は温度管理に努めながら、換気に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が穏やかに過ごせるよう席の位置を考えており、場合により席替えも行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族様に聞き、使い慣れたものを持って来て頂いている。	押し入れがあり、大きい物の収納が可能になっている。家から押し車、洋服掛け、3段ボックス等を持ち込まれている。散歩の時とってきた花を窓辺に飾ったり、家族写真や敬老の日のプレゼントが置かれており、くつろげるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の状態を考え、その方に合った安全かつ自立した生活が行えるように工夫している。		